

一心

～目標に向かって心をひとつに～



学校法人阪南大学理事長 河本伸二郎さん

本学を卒業した後、大学職員として25年間勤務し、その後役員に就任。学生時代から現在まで、立場、役割は変わっても阪南大学を人一倍愛している河本理事長にお話をお伺いしました。

TEXT BY 大野莉央 平尾奈々(阪南大学 流通学部)

Q 理事長の生き方についてお聞きします。

「阪南大学の理事長に就任したときのお気持ちをお聞かせください。」
 責任という重い重圧がありました。本当に自分がやっていけないのだろうかという不安の一方、やらなければいけない、大学を良くしようという使命感がありました。維持するのではなく、少しでも発展させようという気持ちを更に強くしました。

「就任しての目標をお聞かせください。」
 学生たちや教職員に満足してもらう為に、私はどういう役割ができるのかを考え、大学の発展を目標としています。

「理事長に就任して1番印象に残っていることは何ですか？」
 大学の歴史の中でも大きな節目である大学創立50周年を無事に盛況のうちに迎えることができ、その時に理事長として一連の事業を完遂できたことは凄く光栄ですし印象に残っています。

「理事長のモットーは何ですか？」

一つの心、「一心」です。目標に向かって集中し、皆で協力してやっということう意味合いで、教職員や学生にもそうであってほしいという気持ちがあります。

「理事長の尊敬している人は誰ですか？」

大学作りを共にしてきた仲間・経営陣・先生方、50周年を迎える為に支えてくださった方々を尊敬し、感謝しています。その中でも1人名前を挙げるならば、前理事長です。15年間共に経営をしてきましたが、厳しい時代に学園をまとめ上げられた功績は多大であり、尊敬しています。

阪南大学生にメッセージ

精一杯4年間の学生生活をエンジョイしてください。そして、常に社会を見据えてください。学生だから許される事や、学生しかできない事があります。この4年間の間に色々な経験を積み重ねてほしい。社会に出れば失敗が許されない事もあります。元氣ハツラツと阪南大学生らしく、社会に出て行って振り返った時に胸を張って阪南大学の卒業生であると言えるように、学生の内に精一杯やれることをやって下さい。

Q 阪南大学についてお聞きします。

「運営理念はどのようにお考えですか？」

大学創設者の小林菊治郎先生は、50年前に「真の国際商業人の育成」という、時代を先取した建学の精神を示されました。この理念を受け継ぎ、更に発展と成長をさせることが、今を受け持つ私の役割だと思っています。

「阪南大学の独自の特色を生かす為にどのようなことをしていますか？」

就職率が高いことが大きな特色で、関西圏ではトップクラスです。社会で即戦力になる学生を育てる為に実学教育を重視し実践してきた成果です。インターンシップも阪南大学は早期に取り組みました。実社会で引けをとらない実践的な教育が大ききうりの一つです。

「阪南大学の学生に求めることは何ですか？」

阪南大学に活気や元気が物足りなく感じています。企業の方に阪南大学をどのような目で見てくれているかお伺いするんですが、「阪南大学の学生さんは真面目ですね。大人しいですね」と言ってくれます。それは裏返せば、元気がないとも受け取れます。阪南大学の学生は能力以上にまず元気があるよ。ハツラツとして欲しい」と言ってもらえるような学生であって欲しいと思っています。

「未来の阪南大学はどの様にあるべきだとお考えですか。」

本学の強さの特色を更に磨いていき発展させていく中で、10年20年先の次の阪南大学像が

Q クラブ活動についてお聞きします。

「部活動についてどのような印象をお持ちですか。」

クラブ生を休憩時間や放課後にグラウンドや体育館で見かける事が少ないです。いつ活動を行っているのだろうと感じ寂しい点もあります。500人近い学生のうち、クラブ生は2割程度で物足りなさを感じています。本学の規模からすれば成績も伴って部活も賑わうような、そういう大学であって欲しいなと感じています。

「学業と部活動を両立する為に求められることはなんですか。」

本人のやる気次第。時間を割いてクラブに専念することで、一般の8割近い学生たちには得られない尊い物が身につけていると思えます。一緒に汗を流した部員と強い絆が生まれます。わずか4年間の仲間でも切っても切れない関係ができあがっています。部活を通して貴重な経験ができています。それを大事にしてほしいです。

